

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270300033		
法人名	有限会社 グループホームふるさとの家		
事業所名	グループホームふるさとの家「城下」	ユニット名	
所在地	長崎県島原市新湊二丁目丙1740-2		
自己評価作成日	平成29年1月7日	評価結果市町村受理日	平成28年3月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do">http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院3-13-11 サナ・ガリアーノ6F		
訪問調査日	平成28年2月7日	評価確定日	平成28年3月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今までの生活歴を全職員が十分に把握し、その方に合った日常生活を送っていただき自由な時間を過ごしていただいています。できることは自分でしていただきできないところを支援させていただきます。また面会に来られたご家族が、利用者の皆さんや職員をいつでも気軽な談話ができるよう、家庭的な環境を提供しています。地域資源の活用や、地域との交流も活発に行い夏祭りや子供会の交流など利用者の皆さんが楽しめるよう活動も行っています。

島原にある“ふるさとの家「城下」は23年に新築移転している。日本の良き風情を残し、トイレの戸や食器棚も木目調になっている。天窓のあるリビングには移転前のホームの表札が掛けられ、対面キッチンからリビング全体を見渡す事ができる。車いすを利用する方もおられ、2人介助で入浴支援し、湯船に浸かって頂いたり、食事の介助も優しく行い、ゆっくり食べて頂いている。車いすを利用する方も地域でグランドゴルフを楽しまれたり、「玉ねぎを植えたい」等の要望があり、土壌作りから参加して頂き、ホームセンターで肥料選びも一緒にして頂いた。ビニール張りの仕方や苗植えの工程もして頂き、ご本人の表情が“凛とした”満足そうな表情が見られ、職員も嬉しく思っている。外出する機会も大切にされており、お弁当を持参することもあり、日頃ミキサー食を食べられている方は、ミキサー食を持参して外での食事を楽しんで頂いた。ご利用者の笑顔が増え、安心して過ごして頂ける支援を続けている。職員同士の結束も深めており、職員個々の能力が発揮できるように努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通い場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をホール内に表示し声に出して確認するようにしている。	「老いても障害を持っても当たり前に分らしく普通に暮らしたい」という理念のもと、筍掘りや干し柿作り、食事の下ごしらえ、買い物と共に、家族との会話等を楽しまれている。「自分らしく」生活できるように、ご本人の思いを大切にされており、日々の喜怒哀楽への寄り添いを続けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常あいさつを交わしたり、配布物、回覧板を等しての交流、地域行事への参加	町内会に入り、代表や管理者が会合に参加している。ご利用者も市民清掃に参加し、地区の運動会の応援等に行かれています。地区のお祭りや鬼火にも参加し、婦人部の方もぜんざいを準備して下さっている。保育園児や小学生等との交流もあり、ご利用者の肩もみを園児がして下さっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	イベントを通じて当所より発信したことにより、認知症の理解は得られてきている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一回開催しており、利用者の状況や行事を報告、自然災害時の避難に関しても皆さんの意見を聞くことでサービスの向上に活かしている。	地域の方々にホームの取り組みを理解して頂き、色々なご意見を頂いている。災害対策も話し合い、災害に備えて防災頭巾を購入したり、緊急避難時の搬送車の利用者の座席を記入した物を玄関に掲示した。地域情報(精霊船等)も教えて頂き、グラントゴルフに参加する事もできた。	今後は更に「今後の地域に必要なもの」等を含めた議題を検討すると共に、議題に応じて地域の方(消防団・派出所の方等)の参加も検討する予定である。地域に密着した行政の方に参加して頂き、アドバイスを受ければと考えている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的で開催される学習会や会合などを通じてアピールしている。	事務長や管理者等が行政(支所)を訪問している。行政主催の講習会の講師(認知症ケア等)を代表を務めたり、代表は「みんなで良くなっていこう」という思いを大切に、島原市のGH連絡協議会を通して市に要望等を伝えている。運営推進会議で行政の方が総合事業等を説明して下さっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設全体で身体拘束は行われていないという方針が理解されている。委員会を中心に検討、徹底している。	「心のゆとり五か条」を大切にされており、毎月の目標を決めて「身体拘束のないケア」に取り組まれている。感情不安定が見られる時は職員が寄り添い、外出傾向の強い方は散歩等にお連れし、馴染みの美容室(会議ムバー)で一緒にお茶をされるなど、ご本人に応じた対応をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設全体で身体拘束は行われていないという方針が理解されている。委員会を中心に検討、徹底している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者を中心に定期的に活動している。月一回会議を開催し支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い理解納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に様子や気づきを訪ねるようにしている。また要望意見を書いてもらえるよう用紙を準備している。	代表からも、「家族からの意見を大切に」と職員に伝えており、職員は面会時などに家族とお話する機会を大切にされている。家族から「孫の結婚式に参加させたい」と言う要望があり、職員2人で支援し、参列する事ができた。家族は行事の時も協力して下さり、職員も感謝している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の職員会議等でも提案や意見を検討し反映している	職員の意見に対して、代表や管理者は「それはいい」「素晴らしい」等と職員を褒めながら必要なアドバイスをしている。職員向けのアンケートも行われ、職員旅行を復活する事もできた。新人職員の面接も定期的に行い、理念(代表の思い)に添ったケアができるようになってきている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員とのコミュニケーションが大切にされ、各自が向上心をもって働けるよう努められている。職場環境の整備についても意見要望が取り入れられている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画に沿って事業所内外の研修の機会が確保されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	いろんなスポーツ大会や親睦会など交流の場を作って下さりサービスの質の向上を図っている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションをしっかりと図り、家族からの情報も参考にして信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	担当者、管理者を中心に面接し、よき関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状、要望を聞き今必要とされていることに気付くよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ること出来ないことを的確に把握し一方的に援助するのではなく暮らしの中で見守りさせて頂いたり、できないことは支援するという関係を重視している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	手紙、行事への参加、健康についてなど家族と連絡して支援する関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院の継続的な利用支援やよく出かけていたという場所へのドライブなど心がけている。	馴染みの場所は”山”と言われる方も多く、筍掘りや山菜採りに行かれている。柿を収穫して干し柿作りも行われ、雲仙の紅葉見物や八幡神社など、色々な馴染みの場所にお連れしている。お孫さんの美容室で散髪したり、家族や友人等の訪問時に一緒に写真を撮り、部屋に飾られている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各利用者間の関係を把握し、良好な場合は支援しそうでない場合はスタッフが介入する。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後でも必要に応じて相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	折に触れその方と話しその中から情報の把握に努めている。	ご利用者に寄り添って表情を観察したり、日々の会話を通して思いの把握に努めている。各活動の要望も伺い、「歩きたい」「買い物に行きたい」「家に帰りたい」等の思いを記録に残している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報やコミュニケーションまたはご家族からお話を聞くことで把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の各勤務帯で注意深く観察しながら把握する。カルテやほかのスタッフの記録も参考にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個別の記録はファイルされているので情報は共有されている。チームリーダーは全体を把握し、適宜助言している。	洗濯物たたみや茶碗拭き、外出等も盛り込み、3表(日課表)も作成している。転倒予防のための機能訓練等も盛り込まれ、音楽療法や瑞宝太鼓等にも参加されている。日々の記録に計画を手書きし、担当職員を中心に全職員でケアの振り返りをしており、次第に元気になられる方もおられる。	今後は系列のホームと一緒に、アセスメントの書式を検討していきたいと考えている。「できそうな事」「目標」等を増やしていくと共に、リハビリ職との連携方法を検討したり、適切な福祉用具の選定等も行っていく予定である。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常記録にその日の様子を記録し、全職員が情報を共有しキーワードに沿ったケアを実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診や利用者や家族のニーズに応えられるよう柔軟に対応している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じ支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本はかかりつけ医にお願いしている。またかかりつけ医がない場合は、施設の協力医にお願いしている	内科と歯科の往診がある。眼科等は職員が受診支援を行い、家族が同席される場合もある。状態変化時は電話で報告し、定期的受診結果は毎月の手紙で報告している。24時間体制で施設長、主治医、ホームの看護師に相談できる体制があり、夜中も往診をして下さっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の状態を把握し看護師に報告、相談を行いアドバイスをもらっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当医や看護師に相談し安心して治療できるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関する指針を作成し、契約時に説明し同意を得ている。また主治医にもその意向を報告し協力を得ている。	「最期までここで」と希望される方が多く、主治医も24時間体制で協力して下さっている。ホームの看護師にも相談でき、急変時も駆けつけて下さる。病状の変化に応じて、主治医、ご本人、家族と話し合い、医療ニーズが高い方もおられ、主治医から指示を頂いている。後悔のないように誠心誠意のケアを続けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、いつでも見れるようにしている。また研修等で実践できるよう取り組んでいる		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	防災委員が中心となって、定期的に避難訓練を行っている。	島原市GH連絡協議会で災害時の協定を結んでいる。昼夜想定で自主訓練(年6回)を行い、年2回は消防団・消防署・地域の方と4棟合同の避難訓練をしている。津波や普賢岳噴火、地震、山崩れ等を想定した訓練も行われ、各棟の代表(男性職員)が災害対策を毎月検討し、地域の避難訓練にも参加している。災害に備えて防災頭巾も購入し、災害バックや独自の持ち出し品等も準備し、避難時の車の座席位置も玄関に表示している。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊重し声掛けに注意しながら行う。傷つけないような声掛け	島原の優しい方言を使い、声の強弱やトーン、話す早さに注意している。ご利用者と話す時は親身に聴き、1人1人に応じた声かけをしている。職員個々の感情が利用者の行動に影響するので、常に落ち着いて対応するように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定しやすいような雰囲気づくりに努め、表情やしぐさからも見出せるようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方のペースに合わせるようにしているが、ともしれば介護が過激になっていないかという反省もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧品や髪型等その人らしくできるよう対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食スタッフと共に食事を楽しんでいただいている。1日15日の赤飯メニュー、季節の行事食なども取り入れている。	料理長等が手作りされている。ご利用者も野菜の皮むきやゴホウそぎ、テーブル拭き等を手伝って下さる。郷土料理の“ろくべえ”や団子汁等も作られ、1日と15日は赤飯や刺身等も楽しまれている。ミキサー食の方もおられ、職員は嚥下状態に注意しながら、個別の食事介助を続けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量をチェックして職員は把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後利用者の機能に応じた口腔ケアを支援している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排せつ表を活用し個々の排泄パターンを把握し誘導している	排泄が自立し、布の下着(パッド)の方もおられる。車いすを利用する方も下着を着用し、介助でトイレで排泄される方もおられ、パッド使用の有無も職員間で検討している。失禁時も小声でトイレ誘導し、パッド交換等をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食材の活用。乳製品を摂取してもらうよう心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の意見を尊重し無理に行わず、体調・タイミングを見極めながら個々に沿って支援している	入浴好きな方ばかりである。湯温などの希望を大切にすると共に、洋服を脱ぐ時もタオルをかけるなど、羞恥心に配慮している。入浴時は昔話をして下さり、歌も聞かれ、柚子湯や菖蒲湯も楽しんでいる。シャワーチェアを使用し、体調に応じて2人介助も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や気分に合わせて居間や居室で過ごしていただき夜間安眠できるよう昼間は積極的に過ごしていただく		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理表を作成し、全職員がいつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの個性に合わせて日々の生活の中に取り入れて毎日楽しく過ごしていただくよう心掛けている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	頻繁にドライブや買い物に出かけている。	周辺の散歩や愛犬の餌やりも日課になられている。毎日外出される方も多く、外出時間に応じて、昼食時間も柔軟に変更している。お弁当持参で季節に応じた花見(桜、つつじ、秋桜、紅葉など)に出かけたり、海や山のドライブを楽しまれている。舞岳等にお水を汲みに行かれたり、買い物に行き、お菓子等を買われている。	



自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は基本的に行っていないが、本人やご家族の希望に応じ買い物支援を行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでもできるように支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には常に換気をし季節の花が飾られ庭にもいろいろな花を植え、季節感や生活感を取り入れている	天窓のある明るいリビングは、移転前のホームの表札が掛けられ、対面キッチンからはリビング全体を見渡す事ができる。ご利用者個々の椅子を新調し、背もたれ等も個別に調整できる。リビングの神棚の水替えとお花の水替えが日課になっている方もおられ、天皇陛下の写真に手を合わせる方もおられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには各自自由に使えるリクライニングシートを配置、気の合う者同士が隣り合って座れるように誘導する。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使用されていたものを自由に持ち込んでいただき使い慣れたものを活かして心地よく過ごしていただいている	和と洋でドアを変え、お部屋の間違い予防になっている。和室の窓は障子であり、落ち着いた空間になっている。居室には時計や家族の写真を飾られたり、お位牌を置かれている方もおられ、居室でラジオを聞かれる方もおられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置やバリアフリーも行いトイレ等には大きな字で書いて表示し自立した生活が送れるようにしている		